



狼煙の合図 甲斐の国までとどけ！

8月25日 林原運動公園にて



第 691 号
発行人 ● 豊丘村公民館 館長 原 国人
編集人 ● 長野県下伊那郡 豊丘村公民館報 編集委員会
0265-35-9066
印刷所 ● 龍共印刷株式会社

私たちの村
(9月1日現在 ※外国人を含む)
男 3,357人
女 3,388人
総人口 6,745人
世帯数 2,149戸

八月二十五日、二十六日に二十四時間ソフトボール大会が行なわれました。今年の大会は三十回目の節目の年でしたので、例年とは違う三十回目に見合った趣向をこらそうと実行委員会

第30回24時間ソフトボール大会 開催される

実行委員長 中園 紘

二十五日は午前中雨で昼前に一時強く降りましたが、昼過ぎには晴れ、十三時に実行委員が集合して準備に入りました。しかしグラウンドは数ヶ所で水溜りが出来ていて全体が軟弱だったため皆でスポンジで水取り作業を行い一部砂を入れてグ

ランドは完了。テントを張りその他の準備も開始三十分前には終了し予定通り午後三時には下平村長の始球式で少年野球チームのこぶしチーム対あかまつチームの試合が始まりました。

今年の参加チーム数は五十二チームで昨年より二チーム増え、二十六試合で一試合五十分を計画しました。その中に招待試合二試合を組み入れ大会に花を添えて

において会議を重ね準備をして来ました。三十回を記念して初めて村民グラウンドでの開催としました。

ランドは完了。テントを張りその他の準備も開始三十分前には終了し予定通り午後三時には下平村長の始球式で少年野球チームのこぶしチーム対あかまつチームの試合が始まりました。

今年の参加チーム数は五十二チームで昨年より二チーム増え、二十六試合で一試合五十分を計画しました。その中に招待試合二試合を組み入れ大会に花を添えて

24時間ソフトボール大会



今年も恒例により豚汁と飲み水、果物等提供しました。好評でした。この大会のために準備から片付け、その他の面で協力頂いた方々のおかげで無事終了することが出来ましたことをお礼申し上げます。

なぜだろうと思えば、必要な情報は自然に集まってくる。「なぜだ」という疑問を常に頭の中に入れておくと、情報に接した時に、これだ！と何かが閃くだろう。これからも「ぼけ防止」のため、世の中のことに好奇心を持ち続けたい。

(桐崎長二)

のろし 武田信玄狼煙上げ開かれる

八月二十五日の朝十時十五分、林原運動公園で「武田信玄狼煙上げ」が開かれました。

この日は台風通過が予想され、開催が心配されましたが、幸いに逸れて、予定通りに開催され、各地の狼煙の煙も確認できました。

この催しは、戦国時代の知将、武田信玄が、情報伝達の絆として、伊那谷、諏訪、甲斐の国へと築いた狼煙を今に再現し、広域的な連携を図ろうとするイベントで、平成十年、伊那谷からはじまった狼煙リレーは、来年度、県境を越えて、「こうふ開府五百年」を迎える甲府市まで繋がるようとしています。

多彩な企画で盛り上げる
本館社会部 越野清司

朝方には、開催する事が厳しいかと思うほどの強い降雨があり、初参加の狼煙上げ体験を少し諦めかけていた

伊那谷の各地区で様々なスタイルでこのイベントを盛り上げているが、豊丘村においても今回は「ミニ狼煙上げリレー体験」や「鎧姿コンクール」など、狼煙上げに因んだ企画を取り入れられる事で、幅広い世代の村民の方々にこのイベントを知って参加していただき、伊那谷をリレーする狼煙の醍醐味を楽しんでもらおうと考えました。

ミニ狼煙上げは、村民体育館駐車場付近からグラウンドに向けての広いエリアを利用し、五方所のポイントで竹筒を使用し狼煙リレーを行い、最終的に狼煙の本体に点火するプランで行いました。豊丘太鼓の方々により打ち鳴らされる太鼓の鼓動が場の雰囲気盛り上げ、参加した子供達も初めて経験する煙の伝達リレーを楽しんでいました。

鎧姿コンクールも、手の込んだ鎧・兜姿の登場で、初めての試みとしては、今後に向けての良いスタートが切れたと感じています。

参加した子供たちの点火で本狼煙に火が着くと、見事に雄大な白煙が立ち昇り、会場は拍手で盛り上がる

と、隣接する喬木村や高森町で上がる狼煙の確認をしながら、暫し古の

育館駐車場付近からグラウンドに向けての広いエリアを利用し、五方所のポイントで竹筒を使用し狼煙リレーを行い、最終的に狼煙の本体に点火するプランで行いました。豊丘太鼓の方々により打ち鳴らされる太鼓の鼓動が場の雰囲気盛り上げ、参加した子供達も初めて経験する煙の伝達リレーを楽しんでいました。

伝達手段の優雅さやアナログならではのスケールの大きさを堪能しました。



狼煙上げを盛り上げる豊丘太鼓

伊那谷から狼煙リレーが始まって今年で十一回目。諏訪市や塩尻市までの十七市町村をリレーし、次は山梨県へと繋げていくよう、こんな大きなプロジェクトだが、まだまだ村民の方々のコマーシャル不足を痛感しましたので、来年度はより多くの方々と感動を共有出来るよう取り組んで行こうと思います。

私は好奇心が強い方だと思ふ。スポーツ全般、読書、音楽(聞く方)、宇宙天文、マジック、旅行、勝負事等々多くのことに興味がある。多すぎて集中できず、多くのことが中途半端になっている一面もあるが。

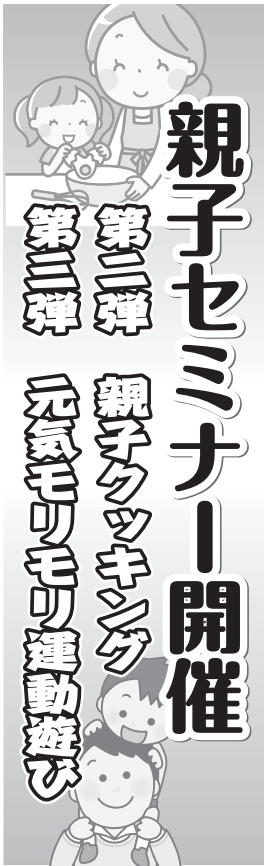
人間心理として興味があることに對しては、より深く知りたいと思うようになり、そこから更に関連のある分野に広がる。連鎖反応である。そうすることで頭はどんどん活性化するのである。大事なことは「好奇心」で、辞書をひくと、「好奇心」とは未知の事柄についての興味」となっている。未知ということとは、まだ知識がないこと。つまり、好奇心とは「なぜだろう」という疑問と言える。

もの心がついて、あらゆるものが不思議に思える年ごろの子どもは、盛んに「どうして」と親に尋ねる時期がある。我が家の孫もまさにそのような状態で、何かにつけて「なんで」と質問攻めにしてきて、答えに窮することがある。NHKラジオの夏休み子供科学電話相談は、大人でも充分参考になる。

なぜだろうと思えば、必要な情報は自然に集まってくる。「なぜだ」という疑問を常に頭の中に入れておくと、情報に接した時に、これだ！と何かが閃くだろう。これからも「ぼけ防止」のため、世の中のことに好奇心を持ち続けたい。

(桐崎長二)

段丘



親子セミナー開催

第二弾 親子クッキング
第三弾 元気モリモリ運動遊び

公民館親子セミナー第二弾「親子クッキング」、第三弾「元気モリモリ運動遊び」が開催されました。それぞれ十二〜十五組、幼児から小学生の親子の皆さんが参加され、楽しいひと時を過ごしました。

親子セミナーに参加して

本山 友美

公民館親子セミナーに、主人と小学生の息子二人と参加しました。

今回は「親子クッキング」をテーマに行われ『親子丼・ほうれん草のおひたし・しゅわしゅわフルーツポンチ』を作りました。

始めに講師の竹下先生のお話を聞いてから、いざ調理開始！ 料理が好きで、家では自己流で調理をしている息子と、同じく自己流で時短調理を得意とする母。一から出汁をとって、分量通りに調味料を量って…と慣れない作業に悪戦苦闘



しました。

出来上がった料理を食べて「かつおの出汁が効いてて美味しいね」と子どもたちも大満足でした。

なかなか家では子どもたちとゆつくり料理をすることができないので、良い機会となり楽しい時間を過ごすことができました。

足形の大切さを知って

壬生 光江

「かけっこが速くなる」という言葉に魅かれ「元気モリモリ運動遊び」に娘と参加させていただきました。

先生が、まず子どもたちの足形を撮ってくださいました。前半は、その足形を見てお話を聞きしました。「五本の指がまっすぐ」「指の形が丸い」「指と指の間に隙間がある」「足形がしっかりと踏ん張ることのできる理想の足形だと教えてくださいました。また、その足形に近づくためには、靴の選び方や正しい靴の履き方



来場者も劇団員も笑顔あふれる人形劇公演

人形劇豊丘公演

実行委員長 昼神 賢児

夏の盛り八月十二日、ゆめあるてにて豊丘村人形劇公演を行いました。夏休み時期ということもあり、保



育園児からご年配、さらには帰省中なのか県外からも多くのお客様をお迎えし盛大な公演となりました。昨年の「ひよこりひよたん島」につづき日本の人形劇団でも最高峰に位置する「ひとみ座」が今年も来村。

上演いただいたのは十返舎一九の東海道中膝栗毛を現代版にアレンジした『弥次さん喜多さんトントンカン珍道中』、老若男女楽しめる大変楽しい人形劇でした。事前に三保育園に協力いただき紙芝居にてその世界に慣れ

てもらった成果か、江戸時代の話にもかかわらず保育園児がのめり込んで観劇しており、「やじさんー」など小さな子からの掛け声は劇団の演者にとっても珍しかったらしく気持ちよく上演できたとお声をいただきました。私たち運営者にとっても来場者と劇団員の笑顔がなにより成功の証だと思います。

また当日は中学生のボランティア四人がスタッフとして参加してくれました。細かな指示よりも重視したのは「来場者が気持ちよく過ごせるように尽くそう」です。彼らなりに考え動いてくれたことは大変ありがた事です。彼らの成長の一助に、今回の公演がなつて

くれればと願っています。



文化事業は時代に合わせて継続していくことで磨かれていきます。また来年もみんなの笑顔が溢れる公演が行えたらと願っています。

シリーズ「元氣な高齢者」④8

溢れる好奇心 多くに挑戦 築いた健康体

菅沼もとさん 九十一歳

古瀬在住



六人きょうだいの次女として大正十五年に阿島で生まれました。六人は仲が良く、近所に住む多くの同年代の友達とも無邪気に元氣よく遊んだ。働きの父親、優しい母親の両親のもとで伸び伸びと育った。小学校を卒業、青年学校で四年間学んだ後、北佐久の修練農場で研修し、一ヶ月の短期間であったが農業の基礎を学んだ。時は戦時下、幼少時から家の農業を手伝ってい

たので何の抵抗もなく帰郷後は、本格的に就農した。その傍ら青年団活動に打ち込むなど活発な女性であった。二十三歳の時、子供に恵まれなかった伯母のいる菅沼家に、もらい合わせで嫁いできた。長女、長男を授かり生活も農業をやりながら安定していたが、三六災害で御主人を亡くすという辛い経験もした。縁あって今の御主人（俊郎さん）

と再婚し、現在まで半世紀余りを連れ添ってきた。俊郎さんは農業には従事せず学校の事務職員として勤めていたため、四反歩の土地を、もともと一人で懸命に耕作した。この時ほど丈夫な健康体に生まれたことをありがたかったことはなかった。それでも男手が必要な時もあり、近所の人に応援を頼んだ。また当時は女性では少なかったバイクを運転し、作業に大きな助けとなった。仕事の傍ら農協婦人部に所属し、後年には部長として存分に活躍した。子供の頃から好奇心に溢れていたもとは、六十

夫婦共に病気がらずである中で、もともとが帯状疱疹で短期間入院した時、俊郎さんの昼食準備のために抜け出すという献身的な奥さんであった。俊郎さんは定年退職後、それまでの罪滅ぼしの意味を込めてか、農業の手伝いをしてくれた。現在でも聴力、視力とも問題なく、杖無しで歩き、野菜作り、家周りの草取りを行い、時にはミニデ、

サロンに通って仲間と楽しい時間を過ごしている。きょうだいは三人が健在で、遠方の岡山に住む弟とはたまにしか会えないが、阿島に住む弟とは頻りに会い近況を確かめ合っている。更に寺の御詠歌を現在に至る十数年に亘ってお唱えし、健康維持に一役買っている。現在は八十六歳まで運転していたバイクも封印し、長年遠方で会社勤めしていた長男夫婦が四年前に帰って来てくれ、四人家族で穏やかに暮らしている。食事は美味しく頂け、未だ衰えぬ好奇心を保ちつつ、お世話になった多くの人々に感謝する日々である。

文責 桐崎 長一



中学生、中国の学生と交流

去る七月二十三日、中国

海南省海口市第九中学校の生徒十八名と先生が豊丘中学校へ交流に訪れました。海南省は中国の最南端、ベトナムに一番近いところで全校生徒は三千人弱とのことです。本校の中学三年生と一年生が三階多目的室で交流しました。互いに合唱を歌い聴き合ってから小グループに分かれ、自己紹介をしたり、日本の国語の教科書に載っている論語や漢詩を中国の生徒と一緒に読んだりしました。

言葉の壁を越えて

三年一組

今井 愛

私は、中国の中学生との交流を通して、感じたことがたくさんありました。特に、中国の中学生が歌ってくれた曲が印象的でした。軽快なリズムで明るく、中国の文化を感じさせられる曲でした。中国語で歌っていたので歌詞の意味はわかりませんでしたが、感動しました。お互いに歌った後は、グループになり自己紹介や質問をしました。英語で話すので、上手く伝えられず沈黙状態でした。しかし中国の中学生がたくさん質問をしてくれました。他にも、私達が、「日本の料理で何が好きですか」と聞いたら、「スープ」と言っていたので日

中国の中学生との交流を終えて

中学校長 牛越雅紀

今回大変貴重な機会を得ることができ、本当によかったと思っています。長野県に住んでいると、海外の人しかも同世代の中学生と出会うことはなかなかありません。世界の広がりを感じうるうえでも素晴らしい時間となりました。交流会全体を通して私が感じたことは、中国の中学生は何事にも大変積極的であるということです。今回のプログラムの中にあつた、



互いの学校を紹介し合う場面でも、クイズを出し合う場面でも、目を輝かせて語りが掛けていました。母国語が違うのは当たり前。それでも学校で習った英語を一生懸命使って、何とか伝えよう、何とか理解しようとする姿勢に感動しました。本校の生徒は一年生六十人ほど。中国の中学生は二十人ほどでしたが、決して気後れすることなく、どんどんと話しかける中学生でした。この積極性はどこから生まれてくるのかとても興味がありました。せつかく、初めて訪れた知らない国で、何でも知りたい、何でも吸収したいという前向きな気持ちであつたからだだと思います。

歌の交流では、本校三年生の合唱を聴いて、とてもビックリしていたように感じました。豊丘の子どもたちが頑張っている歌声活動もしっかり伝わっていたと思います。短時間の交流ではありましたが、互いに尊重し合うことのできた素晴らしい交流会となりました。機会を与えてくださいました皆様に心から感謝します。ありがとうございました。

是非ご覧ください。
(資料館主任 唐澤武彦)

こちら資料館 188

北垣外会所に縄文の炉を復元

この七月に竣工した「河野北垣外会所」南側の庭に縄文時代の住居跡の炉二基が復元されました。(写真)

当地は、古くから知られた遺跡で、平成二六年度の宅地造成に伴う発掘では、県道を挟んだ西側の田から縄文中期(約四千五百年前)の住居跡が発見され、イノシシの頭をかたどった見事な獣面把手土器が出土しています。

今回の会所建設に先立って行われた発掘調査(平成二九、三〇年度)でも縄文



復元された縄文時代の炉

女団連リーダー研修

稲葉クリーンセンターなどを視察

女性リーダー視察研修に参加して

女団連会長 北林美はる

猛暑続く七月二六日、午前九時三〇分、ゆめあるて前をマイクロバスにて出発しました。去年、一団体が女団連から無くなったので、今年は運転手も含めて十人の参加となりました。

南信州広域連合稲葉クリーンセンターの視察をしました。十五分ほど映像を観た後、施設内を案内してくれて、ストーカ式焼却炉

の特徴など専門的なことをわからないなりに勉強してきました。担当者の言葉の中で気にかかったことは、燃やすごみの中に「プラ」のごみが入ってきていること。容器包装のリサイクルできるものは、きちんと仕分けして出してほしいと言いました。思い込みはいけないと私は、家に帰ってからごみの分別ガイドブックをじっくり読み返してみました。

昼食は、川楽屋にてコース料理をおいしくいただきました。女性議員二名の参加もあり、村内のことなどお



話を楽しく聞く事ができ、充実した時間を過ごすことができました。

次は、堀越のゲストハウス「井桁屋」へ到着。旧武田家の民家を大改築して、屋号をそのまま残した「井桁屋」は、瀬口智貴、裕美さん夫妻が五月にオープンしたばかりで、玄関の高い上り框から板の間に立つと十畳間が田の字に広がり、縁側からさわやかな風が通り抜けて心地良く、床の間の部屋に通されました。

手作りケーキ二種類とシャーベットを用意してくれて、梅の酵素ジュースのソーダ割り注文できました。参加者からは、これからの活

とよおか 100年前

北の沢の聞き話

林 近男

これは今から四、五年前の話だが、真実の話なのでちよつと書いてみることにしました。

松川町の福与に私の叔父で宮沢某という人がありま

がらの百姓で、他人にすぐれた努力勤勉家の標本のような人でありました。縁あってこの豊丘村堀越から家内をもらつたので、ときどき堀越へは来られていたわけでありませう。福与から堀越といえは少し離れているようだが村境の間沢川を渡つ

て滝川を通つて上れば約四キロくらい道のりで、堀越へは最短距離で往来ができたのであります。それで叔父はよくこの路線を夕方上つて、滝川から北の沢へ出て堀越で用事を済ませ、泊るということはずいぶん後十時頃にはきつと福与まで帰つたのであります。

ある時、いつものように堀越へ来て、昔のことなので粗末なご馳走でもいただいて出発したのが午後十時頃だつたでしょう。駒沢部落を上つて一本松地籍の北道観音の第一番のあるところから北の沢線を下つて、およそ二、三百メートルく

それから下つてみればやはり滝川部落もあり、間沢川にも下れて福与の我が家に帰つた時は、全く朝方の時間でした。それまでに山の中をずいぶん歩き回つたのか、履いていたわらじもなく、着物もボロボロに破れていたのには全く閉口してしまつたということでした。

堀越へは幾度も来たのだが、これだけ判然と化かされたことははじめてだつたということでありました。いまでもその一番のお観音様から北の沢、滝川の両路線の地籍はなんとなく淋しく感じられる場所であります。

史学会の皆様、参考にご覧いただけます。

(豊丘村民話集・第老輯(昭和五十二年)より)

文責 壬生雅穂

～シリーズ～ 豊丘の自然

No.178

ギンヤンマ
(ヤンマ科)



「今日という日は、誰もまだ、一度も経験したことのない日なのである。言ってみれば、今日という日に対して

は、誰もが素人なのだ。」
（三浦綾子）
「一大事と申すは、今日只今の心なり」（正受老人）
「いま、こゝ」
人間が人間として、生きる
ときの時は、いつでもいま
昨日でも明日でもない、今
日たまたまのいま!!
そして――
自分のいきるところ、生
きる場所は、いついかなる
ときでもこゝ。
西でも東でもない。いま
自分の立っているこゝ。
右でも、左でもない。い
ま自分の坐っているこゝ。
いつでも、どこでも、い

(山田 拓)



八月十五日（水）に分館
対抗球技大会を開催し、野
球五チーム、ソフトボール
七チーム、ソフトバレーボ
ール五チームにご参加いた
だきました。連日、暑い日
が続ぎ、熱中症も心配され
ましたが、時折小雨が降る
ような曇り空の下での開催
となりました。

試合結果
【野球】
優勝 第一分館
準優勝 第四分館
第三位 第三分館
【ソフトボール】
優勝 第四分館
準優勝 第二分館
第三位 第一分館B、
第三分館

【ソフトバレーボール】
優勝 第一分館B
準優勝 第一分館A
第三位 第七分館

参加者募集のお知らせ

みんなで山へ行こう！

日 時：10月14日（日）雨天21日延期
午前7：30 ゆめあるて駐車場に集合
コース：美里登山口～陣馬形山頂
申込み：事前申込みが必要（定員 20 名）
参加料：小中高校生 200 円、大人 300 円
（クラブ員無料）

だんQくん健康ウォーキング

日 時：10月8日（月祝）体育の日
午前8：30 受付開始 午前9：00 スタート
場 所：林原テニスコート駐車場スタート&ゴール
※駐車場はテニスコート奥・村民体育館下をご利用ください
コース：さわやかコース（約6km）、パノラマコース（約10km）
申込み：当日受付（事前申込み不要）
参加料：クラブ員 100 円、高校生以下 200 円、大人 300 円

体力測定

日 時：10月11日（木）19：30～21：00
場 所：豊丘中学校体育館
内 容：日本体育協会の新体力テスト6項目を実施
申込み：当日受付（事前申込み不要）
参加料：無料

※詳しくは、有線文字放送や9月隣組回覧のチラシをご覧ください
お問合せ：NPO法人とよおか総合型地域スポーツクラブ TEL:35-4460



段丘の林公園から見る花火

記録的な猛暑が続いた今年の夏。少し歩いただけでも汗ばむ暑さの中で、水分補給の呼びかけが頻繁にあり、体力も奪われてしまう酷暑と言う夏が、立秋を過ぎたあたりからは幾分過ごしやすくなった。盆を過ぎるとやってくるのが市田灯籠流し。子どもの頃から花火が目当てではなく、ダサラ技術により鉄製の橋に生まれ変わり、三六災害にも流されることなく耐え抜いた丈夫な橋



2005年明神橋の上で花火を鑑賞

写真と文／宮下正弘



夏の夜空を飾る
市田の花火と明神橋

水音も馳走の逸品夏座敷
幾年のことなど胸に後の月
家族写真セピア色して終戦日
夏雲や付き添う母の寝息かな
山並を鳥になりたし夏の雲
谷の風迎え火炎さだまらず
神杉に神と思えり夏蛙
風と盛るガラス小鉢の夏料理
修験者天へ矢を射る滝開き
天逝の子段丘を這ふ夏の霧
夏鶯の声満ちくるや奥天竜
猛暑日の無口になりぬ天竜川
虹色の夢かけし子らのかき氷
灼け灼けて嶺ちどまりぬ原爆忌

磯部セツ子
田中 静
片桐 洋子
森田 恵子
三島 保子
下平 玲子
三島 里子
木下 眞水
松岡 照子
宮下 公
宮下 純子
丸山 時子
林 恵美子
北原 昭子



〈短歌会 夢あるて〉

この夏は三十七度を耐えぬきて茄子もトマトも色良く育つ
筒井 恵子
盆休み帰省した子ら草刈りの手伝いしあとマッサージュに行く
松尾ヒサコ
春逝きて初めての盆母迎う素麺の汁おふくろの味
松下 泰見
稲の穂に白くまぶりて咲く花は愛でられもせず朝露の中
福澤貴美恵
朝顔にゴーヤ育てし窓の外今年は市販のすだれを下げる
大原真由美

〈あしたば短歌会〉

擦り切れしわら草履にて通学す一里の道は本校へのみち
壬生 千春
炎天の狗尾草は振れ止みぬしゃがんで指で青き穂弾く
大倉 知江
道の駅とよおかマルシェオアシスは立ち寄りたくなる観光スポット
毛涯百合子
豪雨受け被災の町に住む人は水に泣かされ水を尊ぶ
北澤 秀子
蚤虱知らぬ孫らに説き難しDDTの全身散布
福澤 亀人

〈豊丘川柳クラブ豊柳会〉

▼課題「雲」 福沢勝美 選
この願い叶えてくれる茜雲 原 美風
雲行きが怪しくなつてそつと抜け 久保ひろし
きのこ雲最後にしよう長崎を 山本 義彦
軸吟…ゆるすまじあのピカドンのきのこ雲
▼課題「立」 互 選
立ちあがる野良の仕事が生きる糧 安田 喜子
行きづまり立ち位置変えて考える 林 桃子
立身も出世も無縁土に生き 桃沢 健介
認知症音も立てずに惚び来る 西元 峯子
▼自由吟 久保ひろし 選
大泣きの子に有り余るエネルギー 小澤 凜
雑音の中の玉音終戦忌 福沢 勝美
年金が飛んで行く行くお盆玉 市沢 照子
軸吟…平成の最後の盆と花手向け